

神戸の鬼3月 神の化身 長田神社の鬼 と 仏の化身 稲美町野寺 高蘭寺の鬼

2. 災い払う火の粉舞う伝統の鬼の舞 稲美町野寺 高蘭寺の鬼追式

稲美町 無形民俗文化財 2012.2.10・夕 加古川市稲美町野寺



2月9日・10日の夕刻 たそがれゆく境内に、ほら貝と太鼓の音が響き、本堂の回廊を松明を掲げて幾度となく練り歩く赤鬼と青鬼。

赤鬼は毘沙門天青鬼は不動明王の化身と伝えられ、燃えさかる松明を人垣へ投げ入れ、本堂正面で舞い踊り、天下泰平・五穀豊穡を祈る。

すぐ眼前を火の粉を撒き散らしながら燃えさかる松明が飛び、人々は飛び散る火の粉をものともせず、参拝者は先を争って拾い上げる。

投げ入れられた松明を持ち帰り、玄関に掲げると魔除け、鬼の面を被せてもらうとご利益が有るといふ。

ここでは鬼は仏の化身 いい鬼である。



神戸の北西端 神出の西側 播磨平野の西端 加古川東岸に数多く野池が点在する稲美町の野寺集落の中心にある古い真言宗の高蘭寺には集落の人達により、約260年守り継がれてきた素朴な鬼追式がある。

鬼追式は毎年2月9日、10日 高蘭寺観音堂(本堂)で行われる。

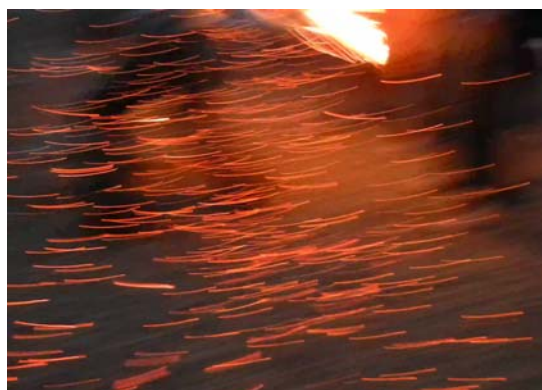
西の空が夕焼けに染まる2月10日の夕刻 太鼓とほら貝(法螺)の音に合わせて現れた赤鬼(毘沙門天の化身)と青鬼(不動明王の化身)が、松明を掲げて ゆっくりと舞い踊りながら本堂の回廊を幾度も巡り、その途中で 松明を境内に向かって投げ入れ、本堂正面で天下泰平・五穀豊穡を祈る。赤鬼は背に斧を差し、手に槌と松明を持ち、青鬼は鉾と松明を持つ。

観音堂の回廊を右回りに4回 左回りに4回巡る。10日の鬼の舞は「餅切り」と称して、本堂の東南の角で赤鬼が斧を持って踊り、餅を切る所作をする。また、使われる鬼の面は約260年前から伝えられているものといい、250年を越えて続く鬼追式である。午後6時半を過ぎ、太鼓と法螺貝の音だけが響き渡る真っ暗になった境内に 木の枝に紅白の切り紙を貼り付けた梅の枝を持って赤鬼と青鬼が現れ、本堂を巡り、裏に消えてゆくと この鬼追式は終わりとなる。

鬼追式が終わると本堂の正面前には 小さな子供を抱えた親や大人たち 集落の人達が行列を作り、次々と鬼の面をかぶらせてもらい、厄除け祈願をして 三々五々帰ってゆく。(2月10日 稲美町野寺 高蘭寺の鬼追式見学より)

火の粉舞う伝統の鬼の舞 稲美町野寺 高菌寺の鬼追式 2012.2.10.

燃えさかる松明を手に 踊りながら出てきた鬼が 人垣めがけて 松明を投げ入れ 人々はその松明を奪い合う
この投げ入れられた松明を軒先・玄関に飾るのが一年の魔除 この地 260年続く風習である

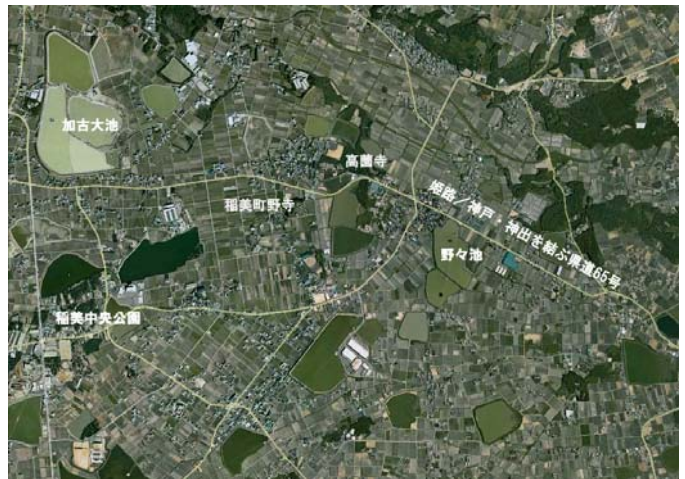
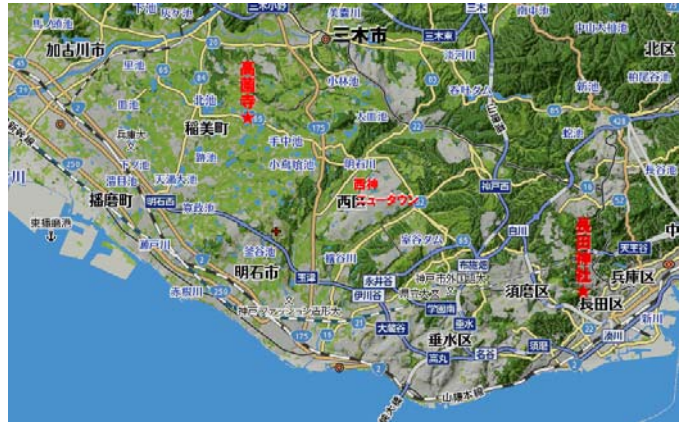


この稲美町野寺 高蘭寺は 神戸の北西端の神出から西へ加古川・姫路へ通じる裏街道沿いにある。

西へ行く時にはよく通る県道沿いで、田園の中に点在する集落のひとつ 野寺集落の古い寺であることは良く知っていましたが、集落の人達によって守られてきたこんな古い鬼追式 「良い鬼 仏の化身の鬼」の伝承があるとはまったく知りませんでした。

土地勘と車でないとちょっと夜行けない場所なので、まだ鬼追式に先立ってあった餅撒きも含め、観光化していない伝統の素朴な鬼追式が今も集落の人達によって継承されていました。

また、もう これ以上 人が増えて 本堂前境内が人の波で埋まってしまうと平たく削いだ黒松をぎっしり束ねて作られた松明が投げ入れることも難しくなるのでしょうか、目の前へ飛んできて、地面でぱっと火の粉が散る迫力はすごい。真っ暗闇の中、法螺貝と太鼓が鳴り響く中、松明の炎に照らされて 浮かび上がる鬼の姿の迫力もすごく、まさに神秘的でもある。



この地域の人が多いのでしょうか、ざっと目分量で300人ほどで、其の中に数多くの子供達。こんなに多くの子供達がいるのもこの鬼追式が集落で生きている証でしょうか・・・

鬼追式が始まる前に 鬼になったことがあるという古老がこの鬼追式や高蘭寺について 生き生きと教えてくれたのが印象的でした。

史料などによれば、高蘭寺を開いたのは 播磨に多くの寺を開いたとされる7世紀半ばごろの人物法道仙人。

9世紀前半には弘法大師も訪れ、地藏菩薩や毘沙門天を安置したと伝わる。

同じく法道仙人が開いたとされ、衰退の一途をたどっていた法雲寺(加古川市)と1355年に合併し、広大な敷地を有し、金堂や薬師堂、宝塔などが立ち並び、最盛期には32坊が軒を連ねていたが、1578年、羽柴秀吉の三木城攻めの際、戦火に遭って大半が焼失。その後、姫路城主池田輝政らの援助によって復興を果たしたという。

寺の前には野池と播磨平野の田園が広がり、寺のある小さな丘には雑木林が広がり、其の中に 石の小さな祠に赤い涎掛けをしてもらった古い石仏が木々の間に点々と安置された林の中の小道が伸びている。88ヶ所を示しているといい、喧騒のない静かな空間が広がっていました。この石仏めぐりも今度ゆっくりやってみよう・・・。

もう ちょっと 交通の便が良いといいのですが・・・



高蘭寺の境内 赤いよだれ掛けをつけた古い石仏が良く整備された林の小道沿いに

点々と続く 集落の中心的存在の古い寺の感じが伝わってくる 2012.2.10.夕

【写真アルバム】

災い払う火の粉舞う伝統の鬼の舞 稲美町野寺 高菴寺の鬼追式

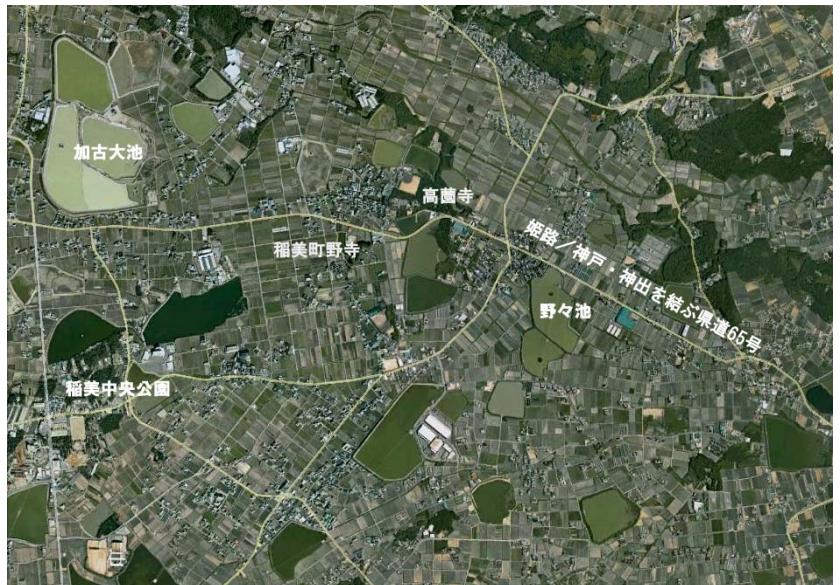


高菴寺の鬼追式は2月9日・10日午後5時からとインターネットに出ていたのが頼りで、午後4時過ぎかないの車で家を出る。とにかく 行って見ないと様子がよくわからない。

神戸の北西端 雌岡山麓神出を南北に走る国道 175 号線とクロスしてさらに西へ県道 65 号 神戸の北から稲美町から加古川を越えて姫路の北へ出る裏街道。は細いですが、信号がなく 渋滞のない地域の人にはみな良く知る道筋である。

神出から田園地帯を西へ4km 10分ちよっとでこの街道筋に点在する集落のひとつ 稲美町野寺の池の横に出る。

この周辺は播州平野の西の端 無数の野池が点在するところで、この野寺の集落をさらに西へ抜ければ、加古の大池から加古川にかかる上荘橋に出る。通いなれた道である。



稲美町野寺 高菴寺周辺 野池が点々とある田園地帯 野池に隣接する森に高菴寺 其の周りに野寺の集落がある

Google map から県道 65 号線 野寺高菴寺周辺の写真を取り出しました

森の熊さん そして野々池の横を過ぎて、稲美町に入ると まっすぐな道の正面に高菴寺の森が見えてくる。この森の際から高菴寺へ行く道があるのですが、今日は高菴寺の追雛式があるので、交通止め。左右二つに分離された野池の真ん中を通り抜け、池の西側から北へ回りこんで、野寺の集落の中から高菴寺へ回り込むように、交通整理員の人が教えてくれる。寺の裏の駐車場にはもう 車がいっぱい。車を置いて 林の中を抜けて 高菴寺の境内に入る。

高菴寺は古い寺で、広い境内なのですが、周囲に垣根はないのですが、良く手入れされていて、中央に小さな本堂 其の西に新しく再建された鐘突き堂があるだけで、西端に住職さんの大きな屋敷が見える。この寺が小さい鳴りに集落の中心的存在であることがうかがえる。時刻は4時半過ぎ 鬼追式を見にきた人達がちらほら。

また、西側の境内には露天店が建ち並び、この高菴寺の鬼追式がこの地域では大きな祭りらしい。

集まってきて鬼追式を待つ人達の中に 鬼役を務めたことがあるという古老を見つけ、鬼追式について教えてもらう。



1. まず 追雛式を行う住職 鬼役の若者やこの集落の世話役・子供達が、西の寺務所から行列で本堂に入る。
2. 本堂から持ち撒き
3. 鬼追式

法螺貝・太鼓に合わせて 本堂の裏から松明をもった赤鬼・青鬼が現れ、回廊を踊りながら本堂の正面へ

赤鬼・青鬼それぞれが、松明を境内に投げ入れ、2匹の鬼が正面で踊りながらまた、向こうの端で松明を投げ入れ回廊から本堂の裏へ消えてゆく。

これを繰り返すという。

ちょうど この辺の距離が松明が飛んでくる位置や・・・と。

また、長田神社では松明が麦藁だったので、

それを聞くと黒松の木を剥いで造った正真正銘の松明で、当たらない様にせなあかと・・・。

これで、小学生や子供達が多くいるのが判った。餅撒きもあるのだ。



話を聞いている間に 境内はだんだん人で埋まってくる。集落の人達や数多くの素人カメラマンが鬼追式の始まりを待つ。

まだ、開始には時間がありそうなので、以前から気になっていたこの高菴寺に隣接する林の中に点在する赤いベベを着た石仏を見に行く。

私はこれが墓だと思っていたのですが、古老の話では古い石仏群で 石屋根の中に納まっているのは 88ヶ所霊場を再現しているのだと。この寺が真言宗 そして播磨 33ヶ所観音霊場であることと関係しているようだ。





待っている間に夕暮れが迫る 真っ赤な夕日が西の空に沈んでゆきました 2012. 2. 10. 夕



260年伝承されてきた高蘭寺の赤鬼・青鬼の面 2012. 2. 10.

赤鬼は毘沙門天青鬼は不動明王の化身と伝えられている

本堂の中を覗くと正面に赤鬼・青鬼の面が備られていました。赤鬼は毘沙門天 青鬼は不動明王の化身で、松明をかがげその火の粉で邪気をはらうという。

この面は約260年 この寺に伝えられてきたお面 このお面をつけて ずっとこの野寺の集落の人達によって鬼追式が行われ、伝承されてきた。

1. 鬼追式を執り行う住職 鬼になる若者 そして世話役の登場

午後5時を過ぎ、いよいよ 鬼追式の行事の始まる。 沈み行く夕日を浴びながら、この鬼追式を執り行う人達が西の寺務所から行列して本堂へ入る。先頭に梅の花枝を持ち、松明を入れた櫃を担いだ子供たちの列 其の後ろにほら貝を吹き鳴らしながら 鬼の役を務める二人の若者が高下駄をはいて続く。 片足づつ、足を高く上げて 一步一步ゆっくりと進んでゆく。



梅の花枝を持ち、松明を入れた櫃を担いだ子供たちの列 2012. 2. 10. 夕



鬼の役を務める二人の若者 高下駄を片足づつ、足を高く上げて 一步一步ゆっくりと進んでゆく 2012. 2. 10. 夕



境内はもう一杯 この田舎のどこからと思うほど 多くの子供たちが眼を輝かせて行列を見ている 2012. 2. 10. 夕



本堂に入って ご本尊に御参り 住職の説話が聞こえてくる 2012. 2. 10.

2. 餅撒き

住職の説法の後には餅撒き。 多くの子供たちの目当てはこれだ。 本当にひさしぶりに参加する餅撒き
鬼追式で 飛んでくる松明をよける訓練も……。 参加せねば……

境内の中に子供たちの歓声と 子供たちに取り囲まれている先生が何人も……。 地域に根ざした行事である。



稲美町野寺 高蘭寺 餅撒き 2012. 2. 10. 夕



餅撒きが終わると本堂内では急ピッチで鬼追式のじゅんぴが進む 2012. 2. 10. 夕



本堂内で赤鬼・青鬼の面がつけられ、
お堂の周りで松明がたかれ、
太鼓が正面に出てきた。
太鼓が「ド〜ン」「ド〜ン」と打たれ、
法螺貝が鳴り響くといよいよ鬼追式
の始まり。 2012. 2. 10. 夕

3. 鬼追式

5時40分頃 法螺貝が境内に響き渡り、「ドーン」「ドーン」と太鼓が打ち鳴らされると本堂の裏から本堂の西側回廊の奥に松明をかかげた赤鬼・青鬼が現れ、赤鬼がユーモラスな歩き方(踊り?)で正面へ躍り出てきて、回廊の手すりに足をかけ、松明を境内に投げ入れる。そして、新しい松明を貰って 正面西隅で青鬼の到着を待つ。

境内の人並みがパッと割れ、投げられた松明に人が群がる。これはすごい。本堂の周りに世話役の人が幾人も配置し、小学生など子供たちを遠ざけていたのはこれだ。

次に青鬼が踊りながら正面角まで出てきて、赤鬼と同じように松明を境内に投げ入れ、新しい松明を受取り、赤鬼の横に並ぶ。

赤鬼は背に斧を差し、手に槌と松明を持ち、青鬼は鉾と松明を持つ。

赤鬼と青鬼は燃えさかる松明をかかげ 舞い踊りながら本堂の正面 そして、東隅でもそれぞれ、松明を境内に投げ入れ、本堂の裏へ消えてゆく。東端で10日は二人の鬼が餅割りの所作をするというが、こちら側からは見えない。

この鬼の舞を半時計回り4回 時計回り4回繰り返す。時計回りに巡り始める頃 境内はもう真っ暗。松明の揺れ動く炎に照らされた鬼の顔が神秘的に浮かび上がり、境内に投げ込まれた松明が火の粉を撒き散らしながら、夜空を切り裂き、邪気をはらってゆく。最後に梅の花枝を持ってもう一度本堂の回廊を舞い踊り、鬼追式は終わる。



稲美町野寺の鬼の舞 高菴寺の鬼追式 2012. 2. 10. 夕



赤鬼がユーモラスな所作で回廊を本堂の正面へ



本堂正面で舞い踊る赤鬼と青鬼 2012. 2. 10. 夕







6時30分を過ぎ 梅の花枝を持って赤鬼と青鬼が舞うと鬼追式も終わり

4. 鬼追式が終わり、鬼の面をかぶらせてもらって 厄除けをしてもらう行列が出来た





の でら さん こう おん じ おに おい しき

野寺山高菌寺鬼追式



毎年二月九日、十日に、鬼追式が本堂観音堂で古式ゆかしく行われます。

赤鬼は毘沙門天、青鬼は不動明王の化身となつて、大太鼓と法螺の音に合わせ、燃え盛る「タイマツ」を振りかざし、天下泰平、五穀豊穡を祈り、豪快に踊ります。

本堂の回廊を所定の回数踊り、本堂正面で餅つき、餅きりの作法を行い、また、要所で「タイマツ」を投げつけます。

「タイマツ」を家の玄関にかかけると魔除けになるといわれ、また、式が終わって本堂正面で鬼の面を赤ん坊にかぶせてもらうと、夜泣き、頭痛が治ると言い伝えられています。



播磨西国第二十四番霊場
野寺山 高菌寺 (真言宗)

現在使用の面 延享2年(1745年)
現在使用の太鼓 元禄6年(1693年)

稲美町 野寺

平成4年12月稲美町文化財指定

